

岡崎市新型インフルエンザ等対策行動計画（案）に対する意見の概要と市の考え方

番号	意見の概要	市の考え方
1	【意見】 新型インフルエンザ等対策行動計画において、ワクチン政策の透明性と安全性をより強化する仕組みを明確に盛り込んでいただきたい。 【理由】 新型コロナワクチン接種では、副反応に関する情報提供の不足、データ公開の遅れ、医療機関や行政の説明の不統一などにより、市民の不安が大きくなった。今後の感染症対策では、同じ問題を繰り返さないために、以下の点を計画に明記してほしい。 ① ワクチンの安全性・有効性データの透明化 承認前・承認後のデータを、専門家だけでなく市民にも理解できる形で公開すること。 ② 副反応の監視体制の強化と迅速な公表 副反応疑い報告の収集・評価・公表を、第三者性のある機関が継続的に行う仕組みを整備すること。 ③ 医療機関・行政の利益相反の管理 接種報酬や製薬企業との関係など、判断に影響し得る要素を透明化し、市民の不信を避けること。 ④ 接種後の健康被害救済制度の迅速化 申請の簡素化、審査の迅速化、相談窓口の強化など、被害を受けた市民が適切に支援される体制を整えること。 ⑤ ワクチン接種の「任意性」の明確化 接種を強制したり、事実上の圧力が生じたりしないよう、学校・職場・医療機関に対するガイドラインを示すこと。 これらはワクチンそのものを否定するものではなく、市民の信頼を高め、安全性を確保するための制度的な改善である。 感染症対策の実効性を高めるためにも、透明性と説明責任を重視した仕組みを計画に盛り込んでいただきたい。	御意見にあります「ワクチン政策の透明性と安全性の強化」については、実施主体が国であることから、本市の行動計画に盛り込むことは考えていません。 本市の行動計画には、利用可能な疫学情報を含めた最新の科学的知見等に基づき、ワクチン・治療薬等の有効性、安全性及び副反応による健康被害のリスク等について、市民の皆様へ適切な情報提供に努めること、及び副反応の相談窓口や接種後の健康被害救済制度についても広く周知を図ることを盛り込んでいきます。
2	○「26.34.56.102.103頁など」ワクチン、治療薬の接種と情報開示に関して ワクチンの治験やその研究を推進するならば、追跡調査をしてください。氏名や住所や勤務先は伏せた状態で、その方々の調査結果の公表、情報開示も随時進めて欲しいです。判断や考察は第三者機関に委ねれば良いと考えるので、関連性が不明瞭でも後遺症や副反応疑いの症状があればあわせて公表してください。 正規市職員、非正規市職員、一般市民にかかわらず、ワクチンや薬の接種は強制しないでください。各個人の意志と体質を尊重し、義務ではなく各個人の判断による努力義務に留めてください。	関連性が不明瞭な症状を公表することは、因果関係のない疾病等も含むことになり、誤解を招きかねないため、市としては考えていません。 また、予防接種は国の責任の下、接種の機会を提供するものですが、接種するか否かは本人の意思に基づいて行われるものであり、強制するものではありません。
3	ワクチン接種する接種しないちゃんと選択できるようにしてほしい。そしてどちらの選択をしても住民サービスが受けられないといった事実上の接種強制のような差別が起こらないようにしてほしいです。	予防接種は国の責任の下、接種の機会を提供するものですが、接種するか否かは本人の意思に基づいて行われるものであり、強制するものではありません。また、接種の有無が市が提供するサービスに影響することはありません。
4	○「57.58.136頁」情報に関して 岡崎市として現時点で正しいとされている情報を分かりやすく繰り返し広報することはお願いします。ただし、誤情報かどうかは後になってみなければわからない場合にも、独断で誤情報と判断することはやめてください。今後AIによる情報収集は必要ですが、検閲は憲法違反です。各データの積み重ねが、総じて将来的に知見として更新されていくべきだと考えます。	その時点で把握している科学的根拠等に基づいた情報を迅速に提供するよう努めます。

5	ワクチンに頼る方法より、市民へ認知を広げ、意識を上げる方法により重点を置いていただきたいです。コロナ禍に意識が上がったように、常に国民が意識する状態が続けられたらと思います。	感染症に関する基本的な情報、感染対策、発生状況等の情報、新型インフルエンザ等に関する情報や発生時にとるべき行動等について、各種媒体を利用し、継続的かつ適時に分かりやすい情報提供・共有を行うよう努めます。
6	数年前、新型コロナウイルスの影響で発熱した患者の受診がかなり制限された時に妊婦でした。仕事をしながら風邪を拗らせてしまい、妊婦のため市販薬が飲めない状況でいくつかの病院に電話をしましたが、妊婦ということを伝えても「本日の発熱患者はいっぱいのため他の病院へ」という対応ばかりでした。産婦人科にも他の患者への影響から断られてしまいました。今後新型インフルエンザ等の感染症が蔓延した時にも同様のことが起こると考えられますが、どうしても市販薬が飲めない人は受け入れるようにしてほしいです。そのためには受診する患者数を減らす必要があると思います。市販薬が飲める人向けの自宅療養方法を市から連絡するくらいしか思いつきませんが、ご検討のほどよろしく申し上げます。	平時から、小児や妊産婦等の特に配慮が必要な患者の医療について協議を行うとともに、新型インフルエンザ等が発生した際には、県と協力し地域の医療提供体制や、相談センター及び受診先となる発熱外来の一覧等を含め医療機関への受診方法等について市民の皆様へ周知を図ります。
7	コロナを経験して、大変な事も沢山ありましたが学びも多かったと思います。 保健所の方々は本当にしんどかったと思いますし、当時はまだ子供が幼児だったため、保育園にはとてもお世話になりました。もし次のパンデミックが起きたとした場合、すぐに思いつくのは行政の自動化、電子化だと思います。病院へ行っても全てが紙で行われるため手続きもやりづらい事が多々ありました。コロナ、インフルでの治癒証明も電子化されればより早く対応ができ、マンパワーにも余裕が出るでしょう。 保育園、病院などのエッセンシャルワーカーの方々には手厚い保障をいただけると回り回って私たちにも恩恵があると思います。よろしく願いいたします。	新型インフルエンザ等の発生時の支援の実施に係る行政手続や支援金等の給付・交付等について、DXを推進し、適切な仕組みの整備を図ります。
8	コロナが流行中は学校や公共機関、スーパー、イベント会場などアルコール消毒が置いてあったが徐々になくなり、咳やくしゃみが出る人に限ってマスクをしていない。 学校や塾、人が集まるところも常時換気しようと窓を開けると暑い寒いと嫌な顔をされ閉められたり、体調が悪くても休まずウイルスが蔓延し学級閉鎖や受験生が受験日に体調が悪くなってしまうこともある。 今一度、感染対策として換気、アルコール消毒、手洗い、咳エチケットを学校や塾、公共機関に推進してほしい。	新型インフルエンザ等の発生時の対策強化に向けた理解や準備の促進のため、学校等に対し、換気、マスク着用等の咳エチケット、手洗い、人混みを避ける等の基本的な感染対策の普及を図ります。

※ いただいた御意見は趣旨を損なわない程度に要約しています。